

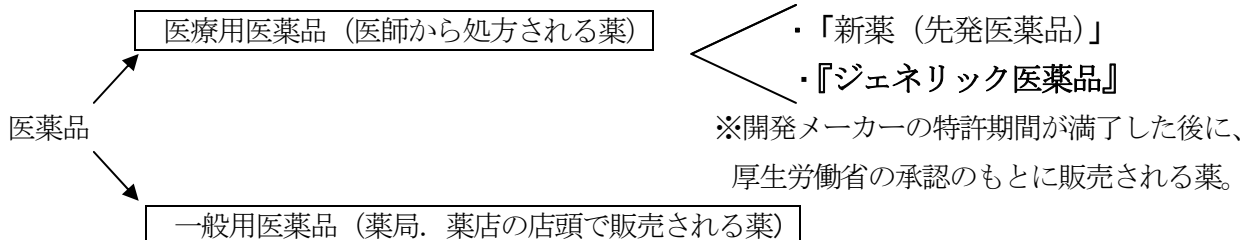
『ジェネリック医薬品』にしてみようかな…？



～組合員T. H. さんの“声”～

組合員のT. H. さんは3年前の健康診断でコレステロールの善玉と悪玉の比率が悪かったのでそのときからコレステロールを下げる薬を飲み始めました。28日分で1,760円と高額のため、『ジェネリック医薬品』に変えてみようとして『ジェネリック医薬品』について調べて見ました。

Q1: 『ジェネリック医薬品』とは？



Q2: どうして安いのか、どのくらい安いのか？

「新薬」を『ジェネリック医薬品』として製剤化するのには「新薬」の開発とは違い、短期間でできるのでコストが大幅に抑えられるために価格も安く設定できる。

※例えばある解熱鎮痛剤で、「新薬」は1錠20.3円→『ジェネリック医薬品』は1錠7.00円です。

特に高血圧症や糖尿病など長期の服用が必要な薬ほど価格差のメリットは大きいと思います。

Q3: 効き目や安全性は？

有効成分・効き目は「新薬」同じで、「新薬」と同様に薬事法に基づく厳しい規制・基準を守って開発・製造・販売がされていて、国も確かな品質を認めています。

Q4: どうしたら薬がもらえるのか？

『ジェネリック医薬品』は病院・診療所・保険薬局で処方・調剤されている薬なので、医師や薬剤師に相談をして下さい。



【組合員T. H. さんのまとめ】

T. H. さんが服用しているコレステロールの薬はまだ『ジェネリック医薬品』ではなくて、あと2年くらいで『ジェネリック医薬品』になるそうで、その時は約1000円ほど安くなるようです。『ジェネリック医薬品』の服用は個人の負担を軽くすると同時に国の苦しい医療財政で、医療費節減にもなります。新しい病気や難病の治療には「新薬」の開発は大切なことです。

「新薬」と患者の経済的負担を軽くする『ジェネリック医薬品』との使い分けがこれからの医療の基になると思いました。

